

令和3年度 第3回豊田市市民活動促進委員会記録

日 時	令和3年10月6日(水) 午後6時30分～午後8時15分
場 所	オンライン (Zoom)
出席者	<p>●委員 (敬称略、会長・副会長以外50音順) 谷口功(会長)、伊東浄江(副会長)、有我都、大地裕介、鬼木利瑛、田中茂樹、西村新、長谷川和哉、三島知斗世、三ツ石靖子、宮田奈佑 以上11名</p> <p>●事務局 生涯活躍部 : 南副部長 市民活躍支援課 : 和出副課長、川瀬主査 とよた市民活動センター : 近藤所長、加藤担当長、勝川主事 地域支援課 : 近藤主査</p>
傍聴者	なし
欠席者	小野健委員、三田博司委員

1 開会

- (1) 開会のあいさつ (近藤所長)
- (2) 副部長あいさつ (南副部長)

2. 議事

- (1) 第4期豊田市市民活動促進計画素案について

事務局から第4期豊田市市民活動促進計画素案に基づいて説明し、内容についてご意見をいただきました。

A 委員 P.15の登録団体数減少の理由について、本当にコロナによる影響なのか。おいでん・さんそんセンターの実績はコロナの前後であまり変わっていない。もう一度確認してみてはどうか。

事務局 登録の解約理由はコロナの影響もあるが、会員の高齢化等様々ではかの理由もみられる。

B 委員 数字の変化を指標として記すことも大切であるが、今後はコロナ禍で数値で示せる限界があるので、活動の質が問われる。数字の内実は何かを把握しておくことが大切になる。

C 委員 体系図の重点取組の「市民活動支援拠点の連携・コーディネート機能の強化」について、とても共感をした。現在自分が職場で社員のボランティアをコーディネートする立場にあり、とても重要性を感じている。

B 委員 第1期はあまり企業を想定した計画ではなかったが、今回は企業を巻き込み、市民活動に展開することを目指している。市民活動の概念図の中で企業をどのように位置づけるかは課題である。

- D 委員 働く市民として、市民活動の概念図の中に自分の活動も入っているという感覚をもてる。
- E 委員 私自身も市民として活動をしている部分大きいですが、一人ではやりきれないことは仲間をつくり活動をしている。企業としては「耕Life」というフリーペーパーを発行している。これは社会貢献を主な目的としており、顔の見える関係性づくりや情報発信という観点から何か地域に貢献できないかという意味でやっている。企業の活動にはなるが公益的な活動に入っている。
- C 委員 市民活動の概念図に自分が入るとは思うが、この図だけを見たときには少しイメージがわきにくい。
- B 委員 豊田市の実態として、企業が市民活動に関わっているので、より適切な概念図を示せるといい。今期の計画では難しいかもしれないが、もう少し広がりを持たせられるような図を再定義することが、次の計画づくりのテーマになると思う。
- F 委員 P.3の市民活動概念図は、今回の計画の重点取組である「多様な主体との共働」のイメージよりは少し狭くなっている気がする。企業の個人のボランティア活動は概念図に当てはまっていると思うが、プロボノなど本業を活かしたボランティアも含まれると思うので、もう少し広いイメージが持てると思う。この図を活かす場合は、縦軸を少し下に伸ばし、市民活動団体だけでなく、様々な主体が課題解決のための社会的な活動（市民活動）をやっていくことが伝わる形になると思う。
- また、多様な主体との共働の必要性が計画の初めの方でわかると思う。現在、共働が必要になってきた理由としては、今までのテーマ型の市民活動だけでは課題を解決しきれなくなってきたということがあると思う。様々な特技や専門性を持っている人が関わり（共働し）お互いの価値観を受け入れながら課題解決を図っていくというのが今期の計画であるという考え方が見えると思う。
- D 委員 市民活動と地域活動の違いがあまりわからない。市民からすると市民活動は豊田の地域の活動なので、地域活動（地縁活動）は自治区を単位としている、などの定義があると分かりやすい。
- G 委員 市民活動概念図のボランティア活動が何を示しているものなのかが気になった。市民はボランティアをしていると思い活動しているので、この枠の中に収まっているものなのか、もっと全体的なものなのかとも思う。
- P.34の子育て支援について。子どもたちが主体となるような活動がどこに入るのか。若者世代の市民活動への参加が少ないことがよく課題にあがるので、子どもたちが主体でやれる活動を考えられるといい。また、女性のキャリアプランについて、就労の意欲にいっきまでのところに課題が多いと感じる。重層的支援につながると思う

がどのようなところで支援ができるか。その世代の人が出てくるとわかりやすくなる。

B 委員 既存の事業に中学生高校生が関われるという表現をプラスし、位置づけることができるのか、それとも新規事業を立ち上げるのか考えられるといい。

H 委員 社会福祉協議会では、ボランティアの定義を「自分らしさを活かしての積極的な地域参加活動」としている。地域の活動であってもボランティアになるので、市民活動概念図は社会福祉協議会としては少しどうかなと思う。特に最近「お助け隊」といって地域の困りごとを地域で解決しようという活動があり、区長や民生委員を中心に行っている。地域活動とボランティア活動と分かれてしまうと現状と少し乖離があるように感じる。

B 委員 地縁型とテーマ型の2つに分けて解釈したところに連携ができない原因があるのではないかという話もある。交流館の活動も分けているからこそ制約が出てくることもあったのではないか。地域活動やテーマ型活動、ボランティア活動など様々な想定がされると思うが、市民活動の概念図については、ブレインストーミングなどを使いながら、それぞれの特徴を抽出し、見える形で表ができるといい。少なくとも今期委員になっている方の関わっている活動や活動団体の位置づけをどのようにタイプ分けをするのかを考えると図が描けるかもしれない。

I 委員 市民活動のとらえ方について、交流館にはまだ趣味サークルはたくさんある。趣味サークルから公益的な活動や課題解決をする活動に発展することもある。前回の計画には趣味サークルという言葉があったと思うが、今回の計画からはなくすということでもいいのか。現場にいると趣味サークルも市民活動の一つという感覚ではある。しかし、計画を見ると市民活動と趣味サークルは違うという印象を受ける。

また、p.27の関連事業の見せ方として、大枠のカテゴリーがあると見やすくなると思う。番号もあったほうがいいと思う。

B 委員 趣味サークルも市民活動に入るという解釈でいいが、市民活動に成長するための出発点という認識になると思う。なぜこの活動が必要なのかに気づき考えられるようになる、話せるようになる市民活動として位置づけることができると思う。意識をはかることは難しいが、NPOに期待しているのは、自分も含め社会の一員として地域のネットワークを作ることであり、趣味サークルがそれに活かされているということが定義できれば、それは市民活動と言えると思う。何でも市民活動という話になってしまうと、混乱をしてしまうので、位置づけはきちんとしたいと思っている。また、市民活動をやっている側からすると、あれも市民活動？というような意識の違い

- もあるので、それぞれの納得できる表現の仕方ができるといい。
- J 委員 コロナの前後で定住の相談、企業の山村地域での活動の相談は減っているのではないかと思ったが、数を見ると減っていなかった。私自身も驚いた。理由は明確には分からないが、コロナ禍でリモートワークが進み、どこにいても仕事ができるようになったので、山村地域への定住の関心が高まっているのではないかと思う。
- B 委員 活動に対する相談件数などが減らなかったところに市民活動の本質のようなものがあるのではないかと思う。コロナ禍でもやってきたことに社会の課題がありそれを解決しようとする団体があるので。また、次の市民活動の在り方も、どこからでも関わることができるオンラインをどう取り入れていくのかと思う。
- E 委員 活動をやらなくても済むが、やらないよりはやっておいたほうがいい感覚がある。また、最近では次の世代への引き継ぎについても考えている。その際に自分自身が色々な事例や、サポートできる力をつけなければいけないと考え、色々やっけていこうと思っている。
- また、今回の計画に「コーディネート機能の強化」とあるが、この内容はこれから必要になると思う。とよしばで「何かしたい相談所」をやっているが、相談内容から一歩踏み出せない人が多いのは感覚としてある。どことつながるか、どのようなアドバイスができるのか、コーディネートをする人の力が問われる。コーディネートをする人が、自分ができなくてもできる人を紹介できる、様々な人とつながっており、たくさんのネットワークがきちんと築けていることが大切であると感じる。
- B 委員 コーディネーターの役割で、自分にできなければ出来る人につなぐ仕組み（相談の拠点）ができるといい。豊田市にはたくさんの中間支援がある。そのネットワークをもっと広げられると様々な相談窓口になると思う。交流館がしっかりとそのネットワークの中に入っているといい。交流館にコーディネートができる人、活動者のネットワークをきちんと知っている人がいることが重要であると思う。
- K 委員 めざす姿はあるが、なぜ目指さなければいけないのかという課題が見えてこない。少子高齢化、地域状況の変化を一人ひとりがどう楽しみながら関われるかということだと思うが、課題が見えてこない。めざす姿がわかりにくい。様々な中間支援ネットワークがある中で、すべてが俯瞰的に見えてこない。自分たちの活動がこの計画とどうつながっていくのかイメージしにくい部分がある。事業展開をセンターの職員と相談したり、具体的にセンターの機能の中に新しい事業をやっけていきますというものがあったりするといい。
- B 委員 それぞれの団体がめざす姿や取組の中にどのように位置づけ活動できるのか、もう少し広い中で説明できるといい。個々の事業ではそれぞれ団体とつながっているというのはいイメージできるが、中

間支援組織がそれぞれネットワークを持っている中でどのように事業が展開できるか、個人や団体のイメージ図のようなものができるといい。今期の完成が難しい場合は、今期考えた中での課題としてメッセージを示せるといい。

また、促進計画の概要版が様々な施設に置かれた際、活動を始めようかなと思った人が手に取りたくなるような計画になるといい。

L 委員 私たちの活動は子どもをメインにしており、大人との距離感や溝があるように感じる。特定の場所にしか情報がなく、市民活動に関する情報を知る手段が少ないので、もう少し増えるといい。情報の発信方法を改善することで人とのつながりが増えると思う。

B 委員 つながり方が世代によって違うこともある。旭地区で学生が YouTube で情報発信していたと思う。大学生がずっとつながる感覚になれるといい。

F 委員 課題がみえにくいという話に関して、課題の見せる化、共有化が大切であると思う。現在市民活動は、活動者が高齢化しており大変な状況である。その課題を共有し、今までとは違う方向からコミットする数を増やさないと解決しないと思う。ニーズとシーズでニーズだけで考えていると詰まってしまうので、シーズの方から考えることがより重要になってくると思う。

また、施策体系の方針3「連携・コーディネート機能強化」につながると思うが、新しい人と連携・コーディネートをするためには、今まで市民活動をやってきた人たちの考え方やルールを見直す必要があると思う。多様な主体との交流の場を作り、連携の話が出た場合に、必ず文化ややり方の違いが出る。その際に個別支援や伴走をしっかり行い、寄り添うことでその連携を育てていくというニュアンスが方針3に含まれるといい。

A 委員 内容について2点検討していただきたいことがある。

1点目が P.31、P.38 の利用しやすい活動場所の提供について。交流館の利用目的を緩和し、営利でも利用できるように方針を転換している。交流館は市民にとってより使いやすくなったという表現を入れられるといい。交流館も市民活動にとって重要な活動場所になると思うので、計画の中で PR してもいい。

2点目が P.28 のめざす姿の「つながる 広がる 楽しむまち」が何を楽しむのかがよくわからない。第8次総合計画では暮らしという言葉が入っている。今回は何も入っていないので少しわかりにくい。活動を楽しむなど何か入れられるといい。

B 委員 「共働を楽しむ」など何かあると分かりやすいと思う。

D 委員 市民活動の用語の定義では「営利を目的とせず、市民が自主的に行う公益的な活動」とあるが豊田ならではの解釈が必要だと思う。私自身は交流館の趣味サークルであっても市民活動に入ると思った。

ただ楽しんでいる私的なものであっても、目的意識を言葉にする段階で市民活動になると思う。定義に公益的という言葉が入ると楽しめるかなと疑問に思った。課題解決となるとやらされ感が出てきてしまうのではないか。私が関わっている地域の集いの場では本読んだりコーヒー飲んだり、自分たちが楽しめればよいという目的意識で、お母さんが少し悩み相談ができたたり、高齢者が一緒にお茶を飲んだりその場所がさらに広がるといいね、というように楽しんでいる。めざす姿に即したときに市民活動の定義がもう少し和らいだものになるといいと思う。

B 委員 用語を再定義していくというのは、次の課題かと思う。民間の企業を巻き込んで市民活動をやるという目的を達成した後、次は何を巻き込むのか。ある程度様々な主体が混ざってきた際に、豊田市の市民活動を再定義するというの次の段階なので、そのことについて考えられるような事業を展開できるといいと思う。

H 委員 趣味活動に関して、ボランティアの大半が趣味から始まっている。自分の好きなことをやり、それを相手に披露すると、ボランティアや市民活動になるので、あまり堅苦しくなくていいと思う。ソーシャルビジネスも出てきているので、何を目的としているのかが市民活動かどうかの基準になると思う。今回ではないかもしれないが定義をしてほしいと思う。

また、P.27 に状態指標があるが、取組内容をクリアすると状態指標が上がるものなのか、リンクしているものか疑問である。例えば、とよた活動応援ネットワークと中間支援コア会議の参加延べ団体数の目指す方向が上になっているが、P.40、41 の取組は参加団体数が増える取組には見えない。また P.34 以降は新規の事業がない。この事業をやるから目指す姿が達成されていくという状態になるとわかりやすい。

また P.41 市民活動の支援拠点は具体的に何か。市役所の関係課も入るものなのか少しわかりにくい。また、福祉総合相談課の事業がコーディネートやマッチングに当てはまるのかももう少しわかりやすくなるといい。

事務局 各事業内容の文章はもう少し改良を加え、表現を追加する予定。

閉会

- (1) 今後の流れを説明しました。
- (2) 議事録確認をお願いしました。